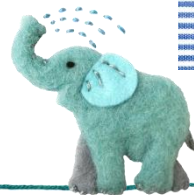


湘北短期大学 高大連携通信 Vol.8

平成26年
9月30日(火) 発行
湘北短期大学
リベラルアーツセンター
E-mail: LAC@shohoku.ac.jp
TEL: 046-247-3131
FAX: 046-247-3667

高大連携教育研究会の報告

リベラルアーツセンター長 岩崎敏之



日時 平成26年8月4日(月)
16時40分～18時10分
会場 湘北短期大学128教室
テーマ アクティブラーニングを取り入れた授業の実践

概要

本年度の第1回目の教育研究会を実施しました。生徒・学生が能動的に学ぶアクティブラーニングの機会を授業の中で設ける方法について、湘北短大で本年度から就業力育成科目として開講している「キャリアアリテラシー」の授業方法を例示した上で、意見交換を行いました。連携高校6校から6名、湘北短期大学からリベラルアーツセンターのメンバーを中心に11名の教職員が参加しました。

初めにアクティブラーニングの定義ならびに実施が求められていることの背景について小棹教授が説明し、アクティブラーニングの問題点や今後議論すべき点について指摘されました。次に、岩崎より「キャリアアリテラシー」の授業の実施概要についての説明を行いました。「キャリアアリテラシー」は本年度から3つの学科共通で設けている就業力育成科目群の科目の一つで、1年生前期の必修科目として開講している科目です。テキストをワークブック形式で活用し、授業時に学生同士に話をさせながら、仕事について・会社の組織について・職場での振る舞い方についてなどを学生自らに考えさせていくという方法でこの授業を前期に行いました。複数クラスで実施しましたが、同一のテキストで同じ方法を進めていく方法をとっていたものの、クラスごとの学生の雰囲気や担当教員によって進行のさせ方が変わらざるを得なかったことなどを報告しました。

後半は、参加者それぞれから、アクティブラーニングをキーワードとして、授業等での取り組みや日ごろ感じていることについて意見をいただきました。

まず、キャリアアリテラシーの授業を担当した教員から、授業そのものは学生が能動的に受講する形になっているが、誰しもができる授業ではないと思われるという感想が述べられました。連携高校の先生から、参考に「ご覧いただいたキャリアアリテラシーのテキストについて、高校にとっても取り組みやすい内容だと思われる」との感想をいただき、進路の多様化に対応する科目が、高校でもっとあっても良いと感じるとのご意見をいただきました。

連携高校の先生方からは、さまざまな教科等での取り組みについて複数のご報告をいただきました。活用できる授業時間を効果的に生かしている実例を紹介いただきました。概略は次の通りです。

◎国際教育のモデル校としてプロジェクト学習の取り組みについて、総合的な学習の時間を利用して、テーマ設定から課題の解決まで行った。昨年度のテーマは人権で、一所懸命に取り組むチームでは、LINEによるいじめをテーマとして取り組み、最終的に行政への提案まで導いた。

◎高校全体の方針として、一方的な話の授業はやめようということになっている。ただ、実際には、単にグループ学習すればよいというものではないと実感を得ている。

◎2年生で2時間、1年間総合的な学習の時間で、インターシップや課外学習などのフィールドワークも行っている。ただし、教材費の個人への負担はかけられないので、テキストとなるワークブックを購入して行うことは困難だと思われる。

◎テーマを「生きる力を養う」として、3年生で1時間、課題研究にて調べ学習を行った。

◎興味を持っているテーマを設定したグループ学習として、配偶者控除の撤廃に賛成か反対かという内容について、家庭総合4時間を活用して実施した。

◎3年前に近現代と神奈川県というテーマで実施した。2時間続きで情報の教室を使用した。

(裏面に続く)

◎神奈川県西部・御殿場線の歴史・空襲のことなどを調べて、最後には生徒がPowerPointで発表した。

◎環境をテーマにした授業を展開している。アクティブラーニングに関しては、小学校の方が進んでいると思われる。言語活動の充実に、向く教科と向かない教科があるという印象を持っている。

また、アクティブラーニングとの向き合い方として、高校での事例として次のようなことがらの紹介がありました。

◎高校の授業改善プロジェクトにおいて、教員がアクティブラーニングを生徒役となって経験するワークを実施している。

◎前提として必要となる知識をどう身につけさせておくかが課題だと感じている。現時点では、1年1学期には一斉授業で行い、2学期にグループ学習・ペア学習行っている。

湘北短大の教員からは、グループワークを行う専門科目での事例として、普段、話すことを苦手とする学生が、グループワークを通して話せるようになるという報告もなされました。また、自由に伸び伸びやる書道の指導をされた生徒が、社会に出てから学んだことが通用しなかったというエピソードが紹介され、何を教授するかということの難しさを再確認しました。

アクティブラーニングについて、単にグループワークを行えばよいというものではなく、評価の問題やチームビルディングの方法について考えていかなければならず、本当にやろうとするとかなりの手間がかかることを最後に改めて確認しました。学ぶ内容と現実との関係性を学ばせ、内側からの動機づけをどのように成し遂げるかという問題に向き合い、学習成果の評価や取りまとめの方法について引き続き考えていかなければならない課題であることを確認して会を終えました。

(了)

前期出張授業の報告

今年度前期に本学教員が連携校で行なった「出張授業」について、「報告いたします。

6月16日(月)愛川高校 全年対象

テーマ「絵本から学ぶ」 保育学科 實吉明子教授

實吉教授の講座には11名が参加し、絵本による表現について学びました。生徒からは「絵本だけでこんなにいろいろなことが伝えられるんだなと思いました。絵本でいろいろなことを上手に伝えられる保育者になりたい」などの感想が寄せられました。

6月23日(月)舞岡高校 2学年対象

テーマ①「生活をプロデュースすること」

生活プロデュース学科 岩崎敏之教授

岩崎教授の講座には15名が参加し、生活するうえで大切なことについて考えました。生徒からは「今はいつからいつまでかやへいつまで生き続けるか」など普段あまり考えないようなことを考えてみて人生について見つめることができた」などの感想が寄せられました。

テーマ②「子どものことば」

保育学科 高木友子准教授

高木准教授の講座には28名が参加し、子どものことばの発達について学びました。生徒からは「子どもがどのようにして話すことができるのか詳しく知ることができた。コミュニケーションをとることで赤ちゃんのことばの発達につながるので、機会があった際にはやってみたいと思った」などの感想が寄せられました。

出張授業へのご質問、「要望等がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

湘北祭の「案内

10月18日(土)、19日(日)開催

第41回湘北祭

今年のテーマは「Plus1(プラスワン)」なかと共に笑い合おう」。湘北祭を通して、一人でも多くの人と関わり、みんなで力を合わせて一つのものを作り上げ、来場者にも湘北の一員となって楽しんでもらいたいと思いが込められています。

湘北祭を成功させるべく、湘北祭実行委員会の学生たちは夏休みを返上して企画・準備を進めています。

当日は保育学科のパフォーマンスをはじめ、約35団体による模擬店、学科の学習成果の展示や軽音楽ライブ、手話、吹奏楽、ダンスパフォーマンスの発表、ゲーム等様々なイベントが行われます。

また卒業生が活躍するインディーズバンド「ザ・ヒーナキヤット」のライブも開催します。

学生が自分たちで考え、作り上げたエネルギー溢れるアットホームな学園祭です。ぜひお越しください。

